

2006 年調査報告

鹿児島大学多島圏研究センター
河合 溪

材料と方法

2005 年 8 月 8 日から 9 月 17 日までと 2006 年 8 月 6 日から 9 月 9 日までフィジー諸島共和国ビチレブ島東部のナイカワンガ村を対象に調査を行った。貝類の漁獲対象の調査と漁法については漁師の人と共に漁に出て漁法の記述と漁獲貝類の同定を行った。

最も漁獲量の多かったカイコソ *Anadara cornea* についてはその資源量の推定するため 2006 年 8 月 20 日に漁場に 6 地点を選び、各地点において 50cmx50cm の方形区を 2 つ設置しその方形区内深さ 10cm まで砂泥を獲り 6mm のメッシュにおいてカイコソの採集を行い殻長の測定を行った。また、市場での販売サイズ組成を調べるため 2006 年 9 月にスバのマーケットに行き販売されている個体のサイズの計測を行った。

結果

貝類相と漁法

11 種類の貝類 *Gafrarium pectinatum*, *Gafrarium tumidum*, *Anadara cornea*, *Periglypta puerpera*, *Tridacna sp.*, *Pinctada margaritifera*, *Pinctada martensi*, *Crassostrea mordax*, *Modiolus agripetus*, *Polinices flemingiana*, *Atrina sp.* が漁獲されていた。捕食性の巻貝が 1 種類で後はすべてろ過食性の貝類であった。この地域は河口に広大なマングローブ林が形成されており、マングローブからの有機物等がこの地域の貝類相に大きく影響をしていることが考えられる。*Atrina sp.* は実際の漁には参加しなかったが貝殻が灰皿として利用されており、まれにこの地域で漁獲するという漁師の聞き取りが得られた。

Gafrarium tumidum はマングローブ林横の泥質に生息しておりランダムに手で泥をどけて採集を行っている。*Anadara cornea* は最も漁獲数の多い貝類である。この貝は沖合いにできた砂州と低潮時においても海水中にある海藻類下の砂泥に生息している。この種は分類が確定しておらず、ある報告では 3 種類に分けて報告されているが、この地域の種がどれに当たるかはまだ確定していない。*A. cornea* に対しては 2 つの方法で漁を行っている。第一に干潮時に砂州に船で行き砂州の上を歩きながら *A. cornea* の出している水管を目視で探し見つけたら素手あるいは持っている棒で掘り起こす。第二は干潮時に竹の船で海藻の漁場に行き船の上に座りながら手を海水中に入れて探す。*G. pectinatum* は *A. cornea* とほとんど同じ生息域で生息している。*G. tumidum* と形態的には非常に似ているため、この地域の人々は形態的な違いは認識しているが同じ仲間として認識しており、市場においては *G. tumidum* と *G. pectinatum* は同じ一山（ヒップ）

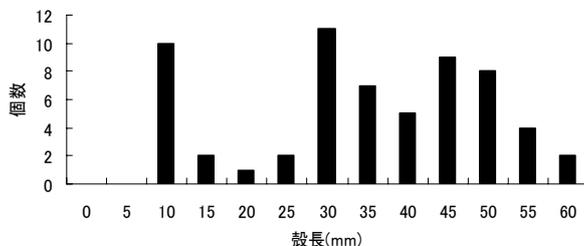
で売られている。 *Tridacna* sp. は *A. cornea* 同様に沖合いにできた砂州に多く住んでいる。そのため *A. cornea* の第一の採集方法同様に水管を探して掘り起こす方法で採集をしている。 *Crassotrea mordax* はマングローブの幹に固着しているので干潮時に上の殻だけ除き肉質だけを採集する。 *Periglypta puerpera* は沖のテラウという島の潮間帯の小岩の下だけに生息し、その岩をどけ採集する。 *Polinices flemingiana* は *A. cornea* と同じ砂州に生息し、 *A. cornea* の稚貝などの殻を穿孔し捕食している。この貝は干潮時においても泥の中に生息するが独特の移動跡が泥の上についており漁師はそれを見分け採集する。 *Pinctada margaritifera* と *P. martensi* はマングローブ域の泥から *A. cornea* が生息する砂州に見られる岩礁に足糸を用い岩に固着し生息しているが生息密度はあまり高くなく食卓にはあまりみられない。 *Modiolus agripetus* は *A. cornea* が生息する砂州上に観察される。

カイコソ *A. cornea* の資源量調査

A. cornea のサイズ組成を図 1-a に示した。単位面積あたりの個体数は 13.6 個体/m² であった。

カイコソの市場で販売されている個体のサイズ組成を図 1-b に示した。これは採集したものをそのまま市場で販売しているのでこのサイズ組成は採集された個体のサイズ組成を示している。図 1-b に示された最小サイズは約 3.5cm でありこれが最小捕採集サイズといえる。この値を用いれば、野外に生息する漁獲対象個体数は 7.8 個体/m² となる。

a) 野外殻長頻度分布



b) マーケットの各ヒップ殻長

